



文部科学省IB教育推進コンソーシアム
IB教育アドバイザー 好事例共有シリーズ vol.12



2025年11月10日
高知県香美市立香北中学校
堀見 絵里沙

振り返りに見る生徒の学びと授業実践

1. はじめに

香北中学校は香美市の山間部にある小規模校で、今年度は全校生徒69名、教職員は管理職・事務職・支援員を含めて約20名です。校区は1小1中で、私立や県立中学校へ進学する児童を除けば、ほぼ同じメンバーが本校に進学してきます。

本校は令和4年（2022年）12月、学区制の公立中学校として全国で初めてMYP認定を受けました。また、校区の大宮小学校は令和3年（2021年）1月にPYP認定校となっており、今年度の中学3年生までの全生徒（他校区からの転入生を除く）がPYP経験者としてMYPを学んでいます。小規模校のため各教科を教員1名で担当しており、異動によって突然MYPを学び始める教員も少なくありません。そのため、複数の教員でチームを組み、週1回程度の定期的なチーム会を開いています。次の項でその取り組みを紹介します。

2. 定期的なチーム会の開催

本年度は教員を3つのチームに分けて活動しています。それぞれのチームで、ニーズに合わせたミーティングを開いています。1学期の取り組みの一部を紹介します。

- チームA 美術・理科・技術家庭（本校勤務2年目）
公開授業や年次研修に向けたユニットプランナーの見直しを中心に実施。

- チームB 社会（3年目）・保健体育（3年目）・音楽（3年目） 社会と保健体育のIDUを、昨年度の反省を踏まえて検討。

- チームC 英語・数学・国語（1年目）
異動してきた教員がいるため、IB教育の理解やユニットプランナーと学習指導の考察、相互授業研究を実施。



3. 振り返りの工夫

異動になったばかりの教員が多い中で、これまでの学習指導要領中心の授業からIBプログラムを含めた学習に移行する際、とりかかりやすいのが「振り返り」の工夫です。本校では、振り返りを「内容の充実」と「共有」の2つの視点で統一した基準のもと、全校で実施しています。教科や単元によって、毎授業後や単元終了後など回数は異なりますが、この取り組みにより生徒の自己調整力は向上してきたと感じています。

3-1. 学習指導要領が示す「振り返り」

生徒が授業後や単元終了後に自身の学びや成長を確認し、次の学びにつなげる自己調整のための重要な手立てとされています。

3-2. IBプログラムが示す「振り返り」

継続的な振り返りにより、批判的・創造的思考や協働、自己評価といったATLスキルが育まれます。

3-3. 本校の振り返りの基準


以下の基準を教室内に掲示したり、振り返りの時間に示したりして、教員と生徒が常に確認できるようにしています。

	段階	初心者	学習者	実践者	熟達者
内容	ポイント	事実を述べる	事実＋考えを述べる	事実＋考え＋他者を述べる	事実＋考え＋他者＋次のステップを述べる
	具体的な姿	取り組んだことや学んだことを記述することができる。	取り組んだことや学んだことについて、自分の考えや思いを記述することができる。	他者の学びや、これまでの学びと比較しながら記述することができる。	教科の枠を飛び越えたり、これまでの学びや経験をもとにしたりして振り返り、次のステップについても記述することができる。
共有	ポイント	きく	聴く	たずねる	提案する
	具体的な姿	他の人の振り返りをきくことができる。	他の人の振り返りについて、自分と比較したり、参考にしようとしたりしながら聴くことができる。	他の人の振り返りについて聴くだけでなく、相手の姿やこれまでの学びを踏まえて質問することなどができる。	聴いたりたずねたりするだけでなく、他の人に新たな気づきを考えるためにアドバイスをしたり考えを述べたりすることができる。

4. 成長の姿

令和7年3月に卒業した3年生の振り返りを、英語の授業での取り組みから見てみます。1年次の最初の単元と3年次の最後の単元を比較すると、熟達者レベルには至らないまでも、成長が明確に感じられました。

単元後の問い：「本単元で学習した概念や探究テーマは、他教科で学習した概念や探究テーマとどのような関係やつながりがあると思いますか。」

1 年生（R4年度入学）	3 年生（R 4 年度入学）
<ul style="list-style-type: none"> ・国語のポップ作りで、見る相手のことを考える。 ・社会。世界でともに生きるのには、コミュニケーションが大事だからです。また、地理では世界の暮らしについて知りました。 ・総合で発表するときにコミュニケーションを取りながら使えそうかなと思った。 ・数学のテーマに似ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術での風景画から自分が感じ取ったイメージで音をつくろうという授業では、それぞれが違った風景画で これまでになかった音の組み合わせを行い、音をつくりだすことができていて、この人はこの風景画を見て こんな感じに感じたんだと新たな発見があったこと。 ・私は国語の単元とつながりがあると考えています。 <p>今、国語では動物実験の是非や捕鯨の賛成・反対について考えています。この単元ではそれぞれ「捕鯨推進派」と「捕鯨反対派」の意見を聞いて「自分はどっち派か」ということを考える単元です。この授業との共通点は、推進派と反対派はなぜわかり合えないのか？ わかり合うためにはどうすれば良いのかについて、両者の意見を聞いて、その2つを統合し</p> <p>「創造性」を働かせ解決を目指すというところにあります。両者の全く違った意見を聞いて矛盾を正すことや新しい考え方を届けるためには何かしらの視点を持って自分の意見を「創造」しなければいけません。具体的には「意見をぶつけてブラッシュアップまたは立場を明確にかつ 実用的にする」という部分で共通していると考えました。</p>

5. まとめ

振り返りのルーブリックや基準を掲示することで、教員と生徒の双方が学習状況を可視化でき、学びを深める仕組みが働いています。その結果、生徒は自分の学びを振り返り次の学習に生かす力が育ち、教員も授業改善に役立てることができています。